


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)


 No.39

● ● ● 目 次 ● ● ●

・特集：第12回日本生殖看護学会学術集会	1
・平成26年総会報告	2
・平成26年度予算	4
・これから行われる学会・研修会情報（2014.11～2015.2）	5
・勉強会開催のご案内	5
・勉強会の支援と助成	6
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら	7
・理事会報告	7
・学会誌に投稿してみませんか？	8
・事務局からのお知らせ	8


特集：第12回日本生殖看護学会学術集会報告
「明日からの実践に生かそう!! 生殖看護の声」

学術集会長 IVF 大阪クリニック 小松原 千暁

第12回日本生殖看護学会学術集会を9月14日(日)、大阪国際会議場において開催しました。本学術集会テーマは、『明日からの実践へ生かそう!! 生殖看護の声』と掲げ、生殖医療に関わる看護師が日々模索している生殖看護について参加者と共に考えられること、さらに、参加者一人一人の実践上の学びとなるプログラムを構成しました。

基調講演では、不妊症看護認定看護師トップランナーの村上貴美子さんより「実践家としての活動と今後のビジョン」をテーマに、生殖医療に看護が構築されていく歴史を整然と、今後の生殖看護の未来像を熱く講演いただきました。メルクセローノ株式会社共催のランチョンセミナーでは、ニューヨーク大学不妊センター勤務の看護師 Christina Obin 氏を招聘し、「米国体外受精プログラムにおける高齢不妊治療患者の治療および生殖看護の提供」、アメリカの生殖医療の現状と看護理論に基づいた看護の実践をご提示頂きました。

また、シンポジウムでは、「チーム医療！それぞれの立場から生殖看護を考える」において、他職種の専門家の方々から“生殖看護とは”を講演いただき、生殖看護の使命と他職種連携について再検討できた機会となりました。特に、不妊治療体験者様からは、18年間の不妊治療を振りかえる中で、一人一人の参加者への心からのメッセージ「患者に一番近い看護師さんだからこそ正確な情報と寄り添いの看護をして欲しい」を届けて頂きました。

さらに、一般演題の研究発表・実践報告として、日ごろの研究成果をまとめた研究部門は9演題、実践報告部門は15演題が発表され、今年度、初の取り組みである学術集会長優秀賞を研究部門と実践報告部門各1演題に優秀賞の楯、賞状、副賞を授与しました。

本学術集会参加者数は過去最多の354名でした。その理由としては、生殖看護の実践家が結集し企画委員会を立ち上げたこと、大阪という良いアクセス、日本 IVF 学会との同日・同フロア開催、学生無料化対策などもあげられます。参加者からも「明日からの実践へ繋がります!!」「基礎から多様化までの学び多い学会だった」と、プログラムの意図に応じた評価をいただくことができました。

本学術集会開催にご協力いただきましたすべての関係者の皆様、日々の研究や活動を様々な形で発表して頂

きました皆様、それらの講演を熱心に聞いて頂きました会員の皆様、何よりも多くの仲間とともに学びの時間を一緒にさせて頂いたことに感謝申し上げます、学術集会のお礼と報告とさせていただきます。

「第12回日本生殖看護学会学術集会に参加して」

「研究部門 優秀賞受賞者からのメッセージ」

聖路加国際大学大学院博士後期課程 崎山 貴代

今年は、学術集会の開催前から、他学術集会との同時開催やFacebookによる情報発信などの新しい取組みに触れ、多くの実践家を有する企画委員会ならではの細やかな配慮とエネルギーを感じながら、大阪の地に参りました。基調講演では、実践家がいかに経験を意味づけ、問題意識や役割認識を行動に移し、将来展望へ発展させてきたか、そして、それは自己実現を越えて、実践家全体の発展へと繋がっていることを実感しました。加えて、ランチョンセミナーでは、看護実践における論理的思考の必要性を再認識しました。また、シンポジウムでは、医師、胚培養士、患者の立場から、チーム医療における看護師の役割と期待が語られました。看護師には苦悩する患者の意思決定を支援する実践者、チームの調整者としての役割が望まれており、そこには看護実践能力の基盤ともなるコミュニケーション力が不可欠であり、患者及び同・他職種とのコミュニケーションと相互理解を通して、専門性を発揮する機会が得られることを実感しました。

実践、教育、研究に従事する看護師が集まる本学会にもチームとしての発展が求められています。この度、賞を頂いた研究は、実践を通して生じた疑問から発し、実践家の皆様の協力を得て行いました。実践への還元と後輩の育成を通じて、微力ながら発展に貢献したいと思います。

「実践報告部門 優秀賞受賞者からのメッセージ」

園田学園女子大学人間健康学部 宮田 久枝

本学会の学術集会は、例年1日に凝縮されているため、前後の業務をやり繰りし参加しています。講演集からは日々進歩していく生殖医療と看護を伺います。今回のChristina De Rosa Obin先生の講演は、高年齢化するクライアントへの不全感に対しリアルタイムな内容でした。生殖技術によっていつでも妊娠できるのではなく卵を戻すのはそれ程多くない事実から、妊娠への機会・加齢に阻まれることをもっと早く女性に知らせるべき問題であることを再認識しました。何より、ナイチンゲールの看護理論に返り対象を理解することの大切さを聞き、治療方法・アメニティや生命倫理等に躍起となっている現状から不妊の現状を環境として見直すこと、看護の原点に戻ることを改めて知らされました。

最後になりましたが、この度は賞を頂きましてありがとうございました。この研究は、これまでのIVF妊娠に対する看護研究結果から不妊治療から産科診療への橋渡しの必要性を痛感し「HUG・kumi(冊子)」というツールの作成に至ったものです。これまでの研究にご協力いただいた方々にこの場をお借りしお礼申し上げます。臨床で活用していただける様にしていきます。ありがとうございました。

☆☆平成26年 日本生殖看護学会総会報告☆☆

日時：平成26年9月14日(日) 13:10~14:00

会場：大阪国際会議場 グランキューブ大阪、
3F イベントホール

出席者：会場出席者 51名、委任状143通
(本学会則第18条により総会成立)

議長：小松原千暁(大会長)

<報告事項>

1. 理事会報告(野澤美江子理事長)

平成25年度に開催された理事会4回の書面理事会5回の報告事項・審議事項について報告。

2. 総務(事務局)報告(森明子理事)

平成26年8月6日現在の会員数は341名。会員管理、関連団体・機関への対応、学会ホームページの運営と管理、ニュースレターや不妊関連情報の掲載、不妊症看護認定看護師に関する実態調査報告書の送付を報告。

3. 各委員会事業報告(平成25年9月1日~平成26年8月31日)

1) 常任委員会

(1) 実践開発委員会(橋村富子理事)：会員に

対する看護上の相談対応、相談活動のPR、不妊症看護認定看護師の継続教育を支援していくための活動、今後の会員の看護職へのサポートのあり方の検討、「相談員派遣マニュアル」の作成、「Fine祭り2013」の後援を報告。

(2) 教育推進委員会(代理 上澤悦子理事)：第10回生殖看護実践セミナーは、第13回学術集会前日に行う予定で検討中。関西・関東地区の勉強会の支援、勉強会等助成要項を学会HP及びニュースレターの掲載の報告。

(3) 広報委員会(實崎美奈理事)：ニュースレター36~38号の企画・編集および発行、関連学会及び関連省庁に向けての発送、JSFNホームページへのニュースレター掲載、PR活動、ニュースレターの電子データ配信に関する意向調査の実施を報告。

(4) 編集委員会(代理 上澤悦子理事)：学会誌第11巻第1号の編集活動、学会誌の発行スケジュール見直し及び査読者の選任と依頼の報告。

(5) 将来検討委員会（有森直子理事）：国内外の情報収集と発信、研究助成の運営・管理、研究促進活動の勉強会の企画と検討の報告。

2) 特別委員会

(1) 看保連対応ワーキンググループ（清水清美理事）：看保連診療報酬及び介護報酬体系の在り方に関する検討委員会に要望書を提出したが採用に至らず。不妊症看護認定看護師に関する実態調査の報告書の作成、不妊治療施設に勤務する看護師対象の「不妊症患者外来相談」の実態調査の報告。

(2) 在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ（森明子理事）：看護師による自己注射指導プロトコルの作成のためのワーキンググループ活動を継続中。自己注射指導を実施している認定看護師へのコンサルテーションと情報収集をもとに、調査用紙の作成・プレテストを実施後、平成26年8月下旬より本調査中であることの報告。

4. 平成26年研究助成審査結果（有森直子理事）：研究助成審査会（平成26年7月22日～9月4日：書面）での選考結果（申請件数：1件、採択件数：1件）の報告。選考結果は平成26年9月8日開催の第5回臨時（書面）理事会で承認。審査委員は上澤悦子氏、野澤美江子氏、森明子氏。

5. 第13回学術集会について（上澤悦子理事）会長は、定本幸子氏（岡山二人クリニック；不妊症看護認定看護師）、日程は、2015年9月13日（日）、場所は岡山国際交流センターと報告

<審議事項>

- 平成25年度収支決算ならびに会計監査（清水清美理事、岸田佐智監事）の説明がされ、承認された。
- 平成26年度収支予算案（清水清美理事）：平成26年度収支予算案が報告され、承認を得た。

●平成26年度事業計画

1. 学会の将来構想の検討（野澤美江子理事長）：理事の中でコアメンバーを作り、本学会の将来構想について考えていく方針を報告。

2. 常任委員会

1) 総務（事務局）

会員管理とHP運営・管理の実施、関連団体・機関への会議出席や学会の意見提出の実施と拡大

2) 実践開発委員会

- ホームページ上での学会員における看護上の相談対応、相談メールへの対応
- 相談活動のPR
- 不妊症看護認定看護師の認定後の継続教育を支援していくための活動
- 聖路加国際大学教育センター認定看護師教育課程（不妊症看護コース）の行う不妊症看護認定看護師の認定後の継続教育をバックアップ、教育推進委員会と連携して各地での勉強会開催へのバックアップ
- メーリングリスト運用による学会員不妊症看護認定看護師ネットワーク作りの充実化
- 今後の会員の看護職（認定看護師、地方の看護職）へのサポートのあり方、活性化についての協議

他機関より不妊症看護認定看護師を相談員とする派遣依頼があった場合の相談員の派遣

3) 教育推進委員会

- 生殖看護実践セミナーの開催・勉強会の支援
- 第10回生殖看護実践セミナーの企画・準備
- 勉強会の報告をニュースレター等へ掲載

4) 広報委員会

- ニュースレターの企画・編集および発行
- 関連学会等でのPR活動、会員数の増加にむけたPR活動
- 他分野とのコラボレーションの検討

5) 編集委員会

学会誌（第12巻第1号）の編集・発行

6) 将来検討委員会

- 研究助成関連の運営・管理および活用方法の検討
- 国内外の情報収集と発信
- ケアの質の向上に向けた将来検討委員会の取り組み

3. 特別委員会

1) 看保連対応ワーキンググループ

看保連の総会・臨時総会に出席、診療報酬改定に向けチーム医療や看護カウンセリングの診療報酬点数化に結びつくエビデンスづくりの検討、不妊治療施設に勤務する看護師を対象とし「不妊症患者外来相談」の実態調査の実施予定。

2) 在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ

在宅自己注射指導のプロトコル案の完成。

4. 学会会則改定について（野澤美江子理事長）：第1章総則 第2条の「聖路加看護大学」から「聖路加国際大学」へ名称変更は、会場の拍手により承認。

5. その他

会場から質問があり、野澤美江子理事長より、以下の回答があった。

・多くの自助グループがある中で、なぜひとつの団体のみを支援しているのか。

→学会の相談員派遣制度に対して依頼があり、理事会で学会の活動として適切であると判断したため派遣を行った。他の団体からも依頼があれば支援を行う予定である。

・不妊看護の研究会を立ち上げたい。将来的には、研究会の研修会が不妊症看護認定看護師の更新のためのポイント獲得につなげていきたい。しかし、小規模の研究会が各地にできても意味がないので、研究会としての独自の機能を持ちながら学会と連携できる組織を検討してほしい。→将来構想で、学会がそれぞれの地区や団体をどのように支援できるか検討していきたい。

・西日本生殖看護グループは、独自の機能を持ちながら、西日本で勉強会を行っていききたいので学会のバックアップをお願いしたい。

→学会で検討していきたい。

6. 第13回学術集会の開催

平成26年度 予算書

(平成26年9月1日から平成27年8月31日まで)

日本生殖看護学会

一般会計

収入の部

(単位：円)

大科目	小科目	予算額	備考
会費収入	年会費	2,560,000	320名×8000円
繰越金	前年度繰越金	2,001,482	
収入合計	収入合計	4,561,482	

支出の部

科目	小科目	予算額	備考
会 議 費		【700,000】	
	理事会会議費	650,000	
	総会費	50,000	往復はがき代
事業費		【1,330,000】	
	広報委員会	300,000	ニューズレター発行
	教育推進委員会	130,000	セミナー開催
	実践開発委員会	50,000	継続教育の支援・相談員の派遣
	編集委員会	400,000	学会誌発行
	将来検討委員会	250,000	研究支援
	学術集会補助費	200,000	第13回学術集会補助費
事務費		【500,000】	
	人件費	320,000	アルバイト(PC入力・HP管理)
	通信費	60,000	
	備品費	30,000	
	消耗品費	90,000	
団体登録料		【162,000】	
	日本看護系学会協議会	80,000	
	看護系学会等社会保険連合	70,000	
	日本カウンセリング学会	12,000	
活動費		【100,000】	
	ワーキンググループ活動	100,000	
選挙管理費	選挙管理委員会活動	【150,000】	
		150,000	
	予備費等	1,619,482	
	支出合計	4,561,482	

特別会計：研究助成金積立金

(単位円)

小科目	予算額	備考
平成26年度積立金	200,000	一般会計より
平成26年度助成金	△200,000	助成2名分予定
前年度までの積立金	550,065	
合計	550,065	

これから行われる学術集会・研修会情報 (2014年11月～2015年2月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP / 運営事務局
11月	1～2日	日本女性医学学会 (第29回) 「次世代の女性医学の発展を見据えて」	都市センターホテル (東京都千代田区)	東京医科歯科大学大学院 生殖機能協同学 担当：尾林 聡、寺内 公一 〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 TEL：03-5803-5322 FAX：03-5803-0148
	8日～9日	遺伝看護 (第2回) ＜出生前診断をめぐるケア＞セミナー	東京医科歯科大学 3号館2F 講義室1 (東京都文京区)	第2回遺伝看護セミナー事務局 Tel/Fax 055-273-8457 山梨大学大学院医学工学総合研究部 産科看護学講座 idenkango@yamanashi.ac.jp
	13日～14日	日本周産期メンタルヘルス研究会 (第11回) 「周産期医療の現場から」	埼玉ソニックシティ4階 「市民ホール」 (埼玉県大宮市)	http://www.waint.co.jp/jspmh11th/03.html 埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック (精神科) 〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981番地 TEL：049-228-3746 FAX：049-228-3746 E-mail：yasuda@saitama-med.ac.jp
	29日～30日	日本看護科学学会 (第34回) 「看護ケア学の構築を目指す研究成果を臨床へ」	名古屋国際会場 (愛知県名古屋市)	学術集会事務局 愛知県立大学看護学部 〒463-8502 名古屋市守山区大字上志段味字東谷 運営事務局 株式会社コンベンションリンクエージ 〒460-0008 名古屋市中区栄3-32-20 朝日生命矢場町ビル TEL：052-262-5070 FAX：052-262-5084 E-mail:jans34@c-linkage.co.jp
	30日	日本がん・生殖医療研究会/日本生殖医療心理カウンセリング学会 共同 開催シンポジウム 「がん・生殖医療導入に向けた精神的サポート体制構築を検討する」	東京慈恵会医科大学 大学1号館 (東京都港区)	http://www.j-sfp.org/index.html 運営事務局 (株) ヒューマン リプロ・K 〒226-0003 神奈川県横浜市緑区鴨居6-19-20 TEL：045-937-1039 FAX：045-937-1029
12月	4日～5日	日本生殖医学会 (第59回) 「これからの生殖医療と家族のかたち」	京王プラザホテル (東京都新宿区)	http://www.jsrm.or.jp/jsrm59/guide.html 第59回日本生殖医学会学術講演会〔本部事務局〕 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38 埼玉医科大学産科婦人科学教室内 (担当：鈴木元晴) TEL：049-276-1347 FAX：049-294-8305 E-mail: jsrm59@saitama-med.ac.jp 第59回日本生殖医学会学術講演会〔運営事務局〕 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7 麹町パークサイドビルディング402 (株) MA コンベンションコンサルティング TEL：03-5275-1191 FAX：03-5275-1192
2015年 2月	15日	日本生殖心理カウンセリング学会 (第12回) 「なぜ今カウンセリングが必要なのか？」	長崎ブリックホール 国際会議場 (長崎市)	http://www.repro-psycho.org/syukai/ 日本生殖医療心理カウンセリング学会 日本生殖医療心理カウンセリング学会 事務局 TEL：045-937-1039 FAX：045-937-1029 株式会社ヒューマンリプロ・K 内 E-mail：hrepro.k@peach.ocn.ne.jp

※2014年9月20日現在の情報です。詳細は各学会 HP 等でご確認ください。

勉強会開催のお知らせ

関東地区勉強会

- 【日時】 平成26年12月21日 (日) 13:30～16:00 (13:00～受付)
- 【場所】 聖路加国際病院 トイスラーホール2階
- 【テーマ】 『がん・生殖医療』を知ろう！考えよう！～治療の現状と看護師の役割～
- 【目的】 がん生殖医療における治療の現状と課題を知る
生命と妊孕性の危機に同時に直面している患者さんをどのようにサポートしていけばよいか考えることができる
- 【内容】 1. 講演 講師：杉本 公平先生
東京慈恵会医科大学付属病院 産婦人科講師
日本がん・生殖医療研究会 カウンセリング小委員会委員長
2. グループディスカッションを予定しています
- 【参加対象者】 生殖看護に携わる看護職者 【参加費】 会員 1,000円 非会員 1,500円
- 【連絡先】 梅ヶ丘産婦人科 荒木 依理 (あらかき えり) kantoarea2014@gmail.com

参加希望の方は所属施設名、参加者全員のお名前、職種、代表者のご連絡先を明記の上、上記のアドレスにE-mailをお願いいたします。
締め切りは12月7日までになります。返信メールが1週間経っても届かない場合はご連絡下さい。

関西地区勉強会

不育症に悩む対象者の看護支援を考える

不育症に悩むご家族は増加の傾向にありますが、どのように看護支援すればよいか悩むことはありませんか？不育症の看護にむずかしさを感じていても看護師間でディスカッションする機会も少ないのではないかと思います。不育症の知識を深め、対象者の心理に寄り添い、看護支援を考える機会としたいと考えます。

日時：2015年3月8日（日）13：00～16：20 受付開始：12時30分 勉強会開始：13時00分

場所：関西医科大学附属枚方病院 合同カンファレンス

大阪府枚方市新町2丁目3番1号 TEL：072-804-0101 内線57177

講師：岡田英孝先生（産婦人科講座 准教授）

参加費：日本生殖看護学会会員 500円 非学会員 1000円

申し込み方法：mail:babamay@hirakata.kmu.ac.jp

担当：馬場真有美 関西医科大学附属枚方病院 生殖医療センター

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡下さい。よろしく申し上げます。

【連絡先】日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野

TEL：043-226-2410、FAX：043-226-2414 E-mail：mori@faculty.chiba-u.jp

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、平成26年度の勉強会助成の募集を以下のように行っております。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

なお、日本生殖看護学会ホームページ（<http://jsin.umin.jp/study/josei.html>）に、助成の申請に関する詳細と申請書類等が掲載されていますのでご覧ください。

日本生殖看護学勉強会等助成要項

【助成の趣旨】

日本生殖看護学会員による生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等運営費を助成し、日本生殖看護学会員サービスに寄与し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】

会員個人または共同で開催する勉強会等企画者を対象とする。

【応募資格】

1. 勉強会企画代表者は会員であって、会員歴2年以上である者。
2. 共同で企画する場合は、代表者以外の共同企画者も勉強会開催時に本学会員である者。
3. 勉強会予算案を日本生殖看護学会員と非会員の参加費に格差をつけ、作成していること。

【助成金】

助成金は勉強会の企画1件につき1万円を限度とし、当該年度の助成は3件までとする。

【助成期間】

平成26年9月1日～平成27年8月31日までの約1年間とする。

【応募方法】

1. 学会所定の勉強会助成申請書に必要事項を記載し、1部を学会教育推進委員会宛にメールで申請する。メールの件名は「日本生殖看護学会勉強会助成申請」とする。
2. 応募受付期間：平成26年4月1日～平成27年6月30日、ただし、勉強会開催の2か月前までに応募する。
3. 申込先：日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野
TEL：043-226-2410、FAX：043-226-2414 E-mail：mori@faculty.chiba-u.jp

【選考及び助成の決定】

教育推進委員会において選考の上、応募から1か月以内に、応募者にメールで通知する。

【助成金の用途】

勉強会の企画・運営に必要な講師料、物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【勉強会の成果の報告】

1. 助成を受けた者は、勉強会終了後、参加人数および成果、収支決算を教育推進委員会にメールで報告する。
2. 勉強会の内容および成果は、ニュースレターに掲載する。

もし不妊看護の現場で行き詰まったら…

日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろう?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

理事会報告

第3回臨時理事会 (書面)

日時: 2014 (平成26) 年 4 月 22 日 (水)

【審議事項】

入会審査: 9 名の入会を承認。

第4回臨時理事会 (書面)

日時: 2014 (平成26) 年 6 月 3 日 (火)

【審議事項】

1. 入会審査: 7 名の入会を承認。
2. 第12回学術集会優秀演題の審査基準について承認。
3. 第13回学術集会会長として定本幸子氏 (岡山二人クリニック)、日程: 2015 年 9 月 13 日 (日) について承認。

第3回理事会

日時: 2014 (平成26) 年 8 月 7 日 (木) 18 時~20 時

場所: 聖路加国際大学 本館5階506室

出席者: 野澤、上澤、森_明、村本、清水、橋村、菅野、實崎、有森、岸田、遠藤、小松原 (オブザーバー) (敬称略)

【報告事項】

1. 第12回日本生殖看護学会学術集会の事前参加申し込み状況、学会優秀賞の審査基準や表彰、予算、広報活動などの進捗状況について報告。
2. 理事長: 日本看護系大学協議会総会への参加報告。
3. 広報委員会: 広報委員会活動計画、NLNo.39号の発行計画について報告。
4. 編集委員会: 学会誌11巻の発行報告。
5. 看保連対応 WG: 看保連年会費について、今後の不妊治療施設に勤務する看護職対象の実態調査実施予定について報告。

【審議事項】

1. 入会審査: 10 名の入会を承認。
2. 第14回学術集会会長候補として、2 名の候補者を承認。

3. 研究助成審査結果について審議され、審査を継続することを承認。
4. 学会事務局所在地の「聖路加看護大学」から「聖路加国際大学」への名称変更に伴う会則改正を承認。
5. NPO 法人 Fine 祭り2014後援の名義使用を承認。
6. 長野県立看護大学附属図書館機関リポジトリへの学会論文掲載依頼を承認。
7. 日本生殖看護学会総会要綱 (案) および総会進行表 (案) について審議。
8. 平成25年度収支決算書 (案) および平成26年度収支予算書 (案) について審議。

第5回臨時理事会 (書面)

日時: 2014 (平成26) 年 9 月 8 日 (月)

【報告事項】 なし

【審議事項】

1. 入会審査: 10 名の入会を承認。
2. 平成25年度研究助成審査結果を承認。

第4回理事会

日時: 2014 (平成26) 年 9 月 13 日 (土) 18 時~20 時

場所: IVF なんばクリニック (なんばSSビル3階)

出席者: 野澤、上澤、森_明、村本、清水、橋村、菅野、實崎、有森、岸田、小松原 (オブザーバー) (敬称略)

【報告事項】

1. 第5回臨時理事会 (書面) にて10 名の入会、研究助成審査結果が承認されたことを報告。

【審議事項】

1. 入会審査: 2 名の入会を承認。
2. 日本生殖看護学会総会要綱 (案) について審議。
3. 平成25年度収支決算 (案)・平成26年度予算 (案) について審議。
4. 日本生殖看護学会の将来構想 (案) について審議。

研究論文を学会誌に投稿してみませんか？

～研究発表で終わらせないために～

あなたが行った研究を論文として形にすることは、生殖看護に携わる看護職に知識を与え、看護の質を高めることにつながります。そして、研究に協力くださった方に対して、本当の意味で感謝の気持ちを示すことでもあります。

査読が厳しいのでは…と思われるかもしれませんが、それは査読が研究指導とは異なる側面をもつためです。査読者の助言を受けることは質の高い論文を作成するために不可欠な過程であり、投稿者にとって、論文内容を多角的に深めることのできるチャンスであるともいえます。

看護実践と看護研究は、乖離するものではありません。自分の看護実践能力を向上させるためにも、この秋、論文投稿にチャレンジしてみませんか？

第12巻第1号学会誌の投稿締め切りは、平成26年11月28日です

*投稿の詳細は、学会誌やHPに掲載する「論文投稿規定」をご確認ください。

事務局からのお知らせ

1. 第13回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
2. 2012年度より、学会の年会費は8,000円になっております。会費納入は、できるだけお早めに、金額をお間違えなく、お願い申し上げます。
3. 異動・転居された方は必ず事務局までご連絡願います。ニュースレター、学会誌の送付はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されません。
4. 会員数346名（平成26年9月13日現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。



次号の原稿締切日

ニュースレター第40号の原稿締切日は、2015年1月26日（月）を予定しています。学術集会や研修会等への参加報告、勉強会開催のお知らせなど、会員の皆さまへの周知の場としてご活用ください。

事務局の宛先が「聖路加国際大学」に変更になっています！

編集後記

好天に恵まれた9月の連休中日、第12回の学術集会が開催されました。上の写真は示説発表の一場面です。この写真からも見てとれるように、今回の学術集会は大盛況であり、とても盛り多い1日となりました。学術集会スタッフの皆さま、本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございました！

広報委員：上澤悦子、實崎美奈

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加国際大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail: jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号：00170-2-333414

加入者名：日本生殖看護学会